

公開研究会研究授業 学習指導案

令和5年度 総合的な探究の時間 学 習 指 導 案

日 時 令和5年11月17日（金）2.3校時
9時50分～11時40分

場 所 視聴覚室

生 徒 学科 普通科

学年 3学年 7名

指 導 者 教諭 祐 川 建一郎（MT）

教諭 三 笠 加奈子（ST1）

教諭 岩 本 信 也（ST2）

1 単元名（題材名） 「本校でできるゼロカーボン」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観「一人一人の発達をどのように支援するか」

本学級は、男子生徒5名、女子生徒2名の計7名で構成されており、知的障害の他に、学習障害や自閉スペクトラム症などを併せ有している。

授業では、日常からタブレット端末を活用しており、全体的に文字の入力や写真撮影などの機器の扱いについて基礎力が身に付いている。何事にも比較的積極的に取り組むことが多く、特に調べ学習については、様々な視点からの見方や考え方が育まれつつある。授業に取り組む姿勢は、活気があり質問に対する反応が良く、記述や入力も概ねできている。

一方、自己完結してしまう傾向にあることから、意図的に協働学習を行い、物事を客観的に捉えることや、他者の意見を柔軟に取り入れることができるような活動が必要であると考えている。

また、探究活動においては、個人で進度に差があることから、課題の量を調整したり内容をさらに詳しく深掘りしたりするなど、最終的にバランスが取れるような工夫や配慮が不可欠である。

さらに、一部、集中力に欠ける生徒もいるため、飽きることなく取り組めるように、個別最適な学びに結びつけられるような課題の提示の仕方などを心掛けている。

卒業後の生活を見据え、日常から、環境問題に結びつけられるような題材を設定しているが、理想と現実を結びつけることに苦慮することが多く、持続的且つ継続的にできる取組を模索している最中である。

(2) 単元（題材）観

ア「何を学ぶか」

近年、地球温暖化が問題視されており、温室効果ガスの実質的排出量をゼロにすることや環境問題への取組は、世界各国の共通認識となっており、日本でも積極的な取組を行っていることを報道等で目にする機会が多い。本校の近くで活動している団体でも、雑草や撤去した花などから堆肥を作り、緑を増やして二酸化炭素の吸収を促進する取組がされており、本校生徒もボランティアで参加させていただくことで、ゼロカーボンについての取組に携わる機会を得ている。

昨年度、S-TEAM 教育推進事業の一環で、ゼロカーボンをテーマに、学校ごとに課題を設定し、その解決に向けた探究活動に取り組み、活動計画の作成、探究活動の実施、発表会の実施、他校との意見交流などを経験することができた。この経験を機会に、「本校でできるゼロカーボン」についての活動を継続してきた。

今年度については、地域で取り組まれているゼロカーボンを見聞し、別の視点から本校でできる取組を考え、具体化を目指している。

収集した情報を整理・分析してまとめる、発表する、意見を出し合うなどの学習に取り組むとともに、総合的な探究の時間だけで完結するのではなく、学校生活に生かしたり、教科等横断的な視点による学習で理解を深めたりなど、生徒の興味関心と関連させながら幅広い視点で物事を捉え、卒業後の就労生活にも生かせるような学びとなることを期待している。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

「学習の手引き」については、使用してからまだ日が浅いが、学習目標を理解することや、自己評価の大切さ、授業の基本的な組み立て、学習のルールやマナーなどの内容を授業の中でも意識できるように指導している。

特に学習目標については、今ある環境の中で実現可能な活動として、「生徒自身が何ができるようになれば良いか」を常にイメージできる目標となるように、最終目的を明確にし、情報共有や視覚化での整理などの工夫を図っている。

(イ)「できる」の視点による授業改善

これまでの学習は、報道や新聞、インターネットの情報、学校の状況を調べて得た情報を基に行ってきた。

校外学習で飲食店に取材し、企業の実践を学ぶことで、新たな視点で「本校でできることは何か」を考え、後日集めた情報を基に整理し、まとめではスライドによるプレゼンテーションを行う計画である。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

昨年度から継続している「環境問題に生かす」こと並びに、地域の飲食店での取組を探究することでの「カフェなど本校での活動に生かす」の2つを探究活動の柱として、主体的に学習に取り組めることができるよう、生徒の興味関心によるグルーピングなども工夫し、生徒の主体的な学びにつなげていきたい。

この学習で付けた2つの力が、卒業後への生きる力になってほしいと願い指導している。

一つ目が、地球環境問題への意識である。自分たちでできる取組があることが分かれば、主体的な学びにつながり、卒業してからも意識的にエコロジーや温室効果ガス排出量の軽減につながる取組を、主体的に継続することにつながるのではないかと考える。

二つ目が、話し合いの力を高める意識である。話し合いのルールやマナーを明確にし、建設的に話し合う経験を積み重ねることで、内容を深める話し合いを意識できるようになってほしいと思う。

また、ツールとしてのクラウドサービスの活用は、情報の共有化をリアルタイムに行えることから、時や場、状況を考えた対応が求められるが、相手に合わせたり自分が主導したりする場面をバランス良く経験することで、主体性だけではなく、他者の意見も受け入れることや、自分の言動に責任をもつことなどの協調性を育むことにもつながり、様々な考え方、見方のあることも実感することができると考えている。

(3) 評価観

「何が身についたか」

学習目標としてキーワードを掲げ、簡潔にまとめられているか、聞き手も作り手もワクワクする内容に整理されているか、本校での取組につなげるために実現可能な内容になっているかの3点について、達成できているかを評価フォームを活用し共有して評価につなげる。

探究した内容が、本校でできるゼロカーボンの具体的な取組になっているかを、他者評価も踏まえて話し合い、現状や環境から分析して評価につなげる。

まとめの発表後にクラウドサービスの共有機能を利用して自身を振り返ると同時に、他者評価を受け入れて改善点を見いだすことができたかの評価につなげる。評価時には、建設的・肯定的な意見になるような評価を心掛けたいと考える。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	高総(6)ア	ゼロカーボンについて理解を深め、本校でできる具体的な取組を調べ、まとめることができる。	地球環境問題に対し当事者意識をもって考え、課題の発見や解決に向けてまとめている。(Google form スライド)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高総(6)イ	情報を収集したり、仲間と話し合ったりしながら、ときには折り合いをつけて取り組み、まとめた内容を発表することができる。	課題の解決に向けて、情報を収集、整理・分析して、まとめ、他者と積極的に肯定的に関わりながら、分かりやすく発表している。(Google form スライド)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高総(6)ウ	課題についての探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組を構想することができる。	地球環境問題と自分の生活とのつながりから、本校で実現可能な方法を見出し、主体的に考えている。(観察)

4 指導計画（全33時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
6/20(火) 2~4校時	3	○本校でできるゼロカーボンについて流れを知る。【わかる】 ・昨年度に作った物を思い出し、今後何に取り組むかを確認する。 ○昨年度の発表を振り返る。【わかる】 ・全道の普通科を設定している特別支援学校6校によるS-TEAM教育推進事業での発表会を思い出し、今後の予定を知る。	・訪問する店舗への打診は職員が行う。
6/27(火) 2~4校時 9/5(火) 3.4校時	5	○地域にある地球環境問題に取り組んでいる店舗での探究活動を考える。【わかる】 ・地域の店舗での取組を調べ、質問内容を考える。 ・見学先を選定する ○店舗で質問する内容を考える。【できる】 ・インターネットなどの情報を調べ、調べきれない疑問点を整理し、質問内容を考える。 ※訪問する店舗が変更になったことから、質問内容を再考する。見学は行えないが飲食店で昼食を摂りながら取組を確認する。	・学校祭及び夏休み明け
10/10(火) 1~4校時	4	○質問内容の確認、修正をする。【できる】 ・内容の重複、回答が明らかに分かるものなどは、再考する。 ○本校でできることへつなげる質問の整理・分析を行う。 【できる】 ・予想する回答から、本校で実現可能な取組がないかを考える。	20日間の前提実習明け
10/23(月)	1	○校外学習時のスケジュールの確認を行う。【わかる】	

3. 4 校時		・タイムスケジュール、流れを確認し、見通しをもつ。 ○質問者の順番を決める。【わかる】 ・順番やマナーなどを決めることで見通しや安心感をもたせる。	
10/24(火) 1~4 校時	3	○実店舗の見学と質問を行う。【できる】 ・あらかじめ準備した質問を担当者に行き、回答をまとめ、整理する。 ○先駆的な地球環境問題への取組を行っている店舗で昼食を摂る。【できる】 ・リサイクルループや安心・安全等の視点で取組を探究し、まとめ、整理する。	校外学習
11/7(火) 2~4 校時 ・ 11/14(火) 2~4 校時	6	○質問への回答のまとめ①②【できる】 ・質問への回答を整理し、本校でできるゼロカーボンへの取組につなげられる内容を考え、スライドにまとめる。	
11/17(金) 2. 3 校時	2	○探究課題のまとめと発表を行う。【できる】 ・時間や伝え方、表情などを意識した発表を心掛ける。 ○他者評価から次への改善点を探る。【いきる】 ・評価を可視化したもので振り返り、改善等につなげられるようにする。	本時 (24/33)
11/21(火) 2~4 校時 11/28 火) 2~4 校時	6	○前時の発表から、本校でできるゼロカーボンへの取組を考える。①②【できる】 ・前時の発表から具体性のある取組を選択し、役割分担などを決めてスライドなどにまとめる。	
12/12(火) 2~4 校時	3	○本校でできるゼロカーボンへの取組を考える。③【できる】 ・具体性のある取組を選択し、役割分担などを決めてスライドなどにまとめ、可能であれば実践する。 ○単元を通しての振り返りを行う。【いきる】 ・振り返りフォームを活用し、全体で今回の取組の総括を行う。	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
A	・楽しい雰囲気になりたいという気持ちが先立ち、場にそぐわない言動にあることがあるが、基本的には与えられた役割を全うすることができる。 ・簡潔にまとめて相手に伝えることを現在取り組んでいる最中。 ・タブレット端末を活用し、幅広く検索できる強みをもっている。	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容を端的にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、聞き手のことを考えながらわかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
B	・自分の意見を押し通そうとする傾向にあるが、周りの意見を柔軟に受け入れられるようになってきた。 ・思い通りにいかなかったときに不機嫌になる傾向があるが、本人が課題として自覚できるようになってきてからは、改め切り替えられるようになってきている。タブレット端末の操作は得意である。	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。

C	・本人にとって興味関心が低い事柄に関しては、指導を受け入れられないことがあるが、自分の好きなジャンルのことであれば集中が持続する。 ・周りのペースに合わせてようと努力できるようになってきている。 ・調べる内容を絞ることで、時間内にまとめることができる。	知技	ゼロカーボンについて基本的な内容を理解し、本校でできることをまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えを織り交ぜながら説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、具体的な探究活動に取り組むことができる。
D	・物事を難しく考えてしまう傾向があるが、自分の言葉で伝えることを優先することで、簡潔にまとめることができるようになってきた。 ・自分の考えよりも相手の考えを優先するところがあるため、周りと同じ意見であっても、自分の言葉で考えを伝えるように環境設定する必要がある。 ・指示の理解に時間を要することもあるが、理解することができれば作業速度は速めることができる。	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、インタビューなどを通し、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えに自信をもち、わかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
E	・話しを自分主導で進めていこうとする傾向にあるが、リーダーの役割を他者へお願いするなど意図的に環境を設定することで、話し合いなどでも協調性をもちながら参加することができるようになってきた。 ・自分の経験の中で物事を完結させようとする傾向があるため、多くの経験を通して学びを深めている。独自の観点で物事を考えている傾向にある。	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容を丁寧にまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を仲間と折り合いを付けながら整理し、聞き手のことを考えて説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、みんなでできる具体的な取り組みにつなげることができる。
F	・自分の考えをまとめるのに時間を要するが、作り上げたものは考え込まれた内容に仕上がることが多い。 ・周りの意見を取り入れながら自分の意見も交え考えることができる。 ・与えられた役割を責任をもち全うすることができる。	知技	調べ学習を通してゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる具体的な内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えを盛り込みながら説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
G	・基本的に与えられた指示に対して否定的な考え方をもっているが、忠実に対応しようとする真面目さがある。 ・文章などにまとめることを苦手としているが、イメージをもちながら、タブレット端末で検索した内容から必要な語句を抜き取りまとめることで負担感少なく取り組むことができる。	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を、助けを求めながら自分の言葉で整理し、自信をもって説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、現実的な探究活動への取り組みにつなげることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができる。	調べた内容が正確で、わかりやすさの工夫を図ってまとめている。(スライド等、観察)
思考力、判断力、表現力等	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができる。	情報を整理し、自分の考えを交えながら発表している。(振り返りフォーム、観察)
学びに向かう力、人間性等	探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的で現実的な内容を考え、実践につなげようとするすることができる。	実践可能なゼロカーボンへの具体的な取組を考え、実践につなげている。(観察)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

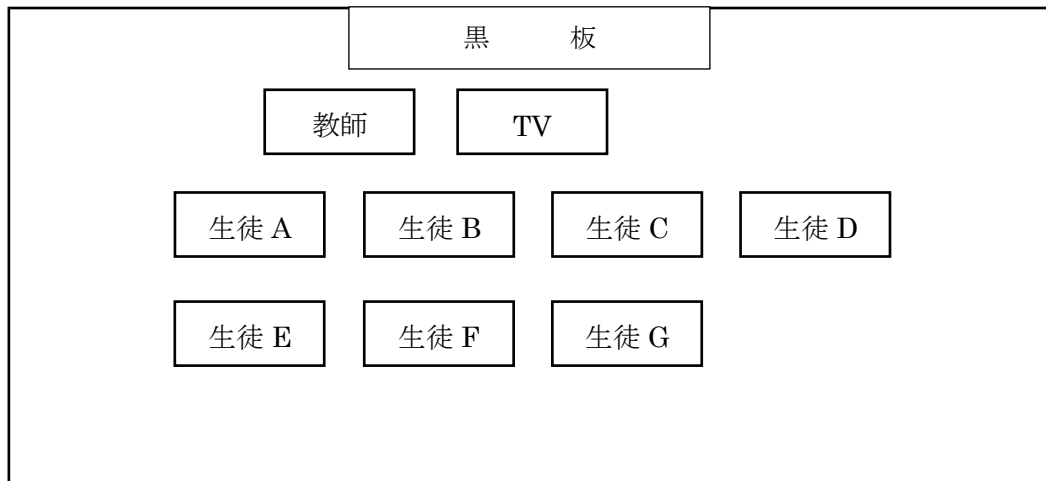
生徒	本 時 の 個 別 目 標		個 別 の 手 立 て
A	知技	・端的に整理することを心掛け、わかりやすいまとめることができる。	・相手にわかりやすい表現でまとめられるように援助する。 ・仲間との意見交換や外部講師、文献を活用し、情報を収集する。
	思判表	・写真やイラストを活用し、見やすさの工夫を図りながら作成し、発表することができる。	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの取組を構想することができる	
B	知技	・調査活動において、目的に応じて正確にまとめることができる。	・具体的で実現可能な視点から外れないよう適宜援助する。 ・ルールとして肯定的・建設的な意見でやり取りすることを設ける。
	思判表	・インタビューやインターネットで集めた情報を整理し、わかりやすくまとめ、説明することができる。	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの具体的な取組を考えることができる。 ・他者の意見を素直に受け入れ、他者にも肯定的意見を伝える。	
C	知技	・調査活動において、わかりやすくまとめることができる。	・自分も分かる内容になっているかを確認しながら進める。 ・聞き手が聞きやすい話し方を意識して発表するよう促す。
	思判表	・インタビューした内容を整理し、聞き取りやすい声を意識して発表することができる	
	学人	・本校でできるゼロカーボンへの現実的な取組を考えることができる	
D	知技	・調査活動において、自分でも理解できる内容にまとめることができる。	・まとめた内容がどこまで理解できているかを適宜確認する。 ・文献等の内容を自分の考えに変換した内容になっているかを確認する。
	思判表	・インタビューやインターネットなどで集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの具体的な取組を構想することができる	
E	知技	・調査活動において、テーマを意識し、テーマに沿ってまとめることができる。	・テーマを意識し、適切な表現でまとめ、発表するよう促す。 ・丁寧な作業を心掛けるよう促す。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を丁寧に整理し、聞き手の気持ちを考えてわかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、カフェなどで活用できるゼロカーボンへの具体的な取組を考えることができる	
F	知技	・調査活動において、目的に応じて正確にまとめることができる。	・分かりやすい内容になるよう適宜援助する。 ・どの部武運がテーマと関連しているかを確認する。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの取組を構想することができる	
G	知技	・調査活動において、調べた内容を教師と相談しながら具体的にまとめることができる。	・自分の考えを盛り込んで整理できているか確認しながら進める。 ・教師に何らかの形で援助を求めるよう促す。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの実現可能な取組を考えることができる	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 10 分	1 号令	●Google へのログインをあらかじめ行い、Google classroomに接続する。 ●日直の号令で挨拶を行う。	○Google classroom への接続を指示する。	○必要に応じて、Google classroom への接続支援を行う。	・タブレット端末、キーボード
	2 前時の振り返り (4分)	●Google classroomでこれまでとこれからの学習の流れを確認する。 ●前時の学習内容を思い出す。【わかる】	○学習計画のスライドを示し、注視を促す。 ○挙手し指名されてから発言を促す。	○画面に注視しているか確認を行う。 ○発言に迷った場合は、ヒントを与える。	・タブレット端末、キーボード、テレビ
	3 本時の説明 (6分)	●本時の学習目標と学習予定を知る。【わかる】 ●本時の授業のキーワードを確認する。 ・簡潔、ワクワク、実現可能	○Google classroomで提示する。	○必要に応じて、タブレット操作の支援を行う。	・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き
【本時の目標】(仮) ☐【知】調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができる。 ☐【思】課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができる。 ☐【学】探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的で現実的な内容を考え、実践につなげようとするができる。					
展開 70 分	4 まとめ、最終確認 13 分	●スライドへのまとめ作業と最終確認を行う【できる】 ●完成したら MT へ報告を行う。	○確認のポイントとして、誤字・脱字、著作権の侵害がないかなどを中心に確認を促す。		・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き

	5 発表 32 分	●発表する際、発表を聞く際の約束を確認する。 ・発表の順番を生徒間で話し合い決める。 ①タブレット操作しながら、聞き手にわかりやすく伝えることを意識して、スライドを発表する。【できる】 ②聞き手は、発表時の良い点や改善点を Google form に入力する。【できる】 ③AI テキストマイニングで全員の意見を確認する。 ・発表者より意見等も踏まえて感想を述べる。 ・全員の発表が終わるまで①②③を繰り返す。 ※切りの良いところで休憩を入れる。	○発表者は相手への聞きやすさ、聞くときは肯定的な捉え方を意識することを約束し、守るよう促す。 ・発表はプレゼンテーション形式で行うことを説明する。 ・入力する際に、改善点においても肯定的な意見（〇〇したらもっと良いなど）になることを心掛けるよう促す。資料 1 参照。	○約束の遵守を促す。	・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き ・テレビ
	休憩 10 分			【評価の場面】 ■【知】自分の役割を意識して、整理してまとめているか、スライドを発表しているか、スライドや観察を基に評価する。 ■【思】調べた内容が整理されていて、自分の考えが盛り込まれているかフォームや観察を基に評価する。 ■【学】他者からの評価を受け入れ、仲間と協働して本校での具体的なゼロカーボンへの取組を目指していこうとしているか、フォームや観察を基に評価する。	
	6 修正作業 15 分	●様々な視点からの意見を受けて、必要に応じて改善を図る。			
まとめ 20 分	7 本時の振り返り 15 分	●本時の学習内容を振り返る。【いきる】 ・Google form で振り返りシートに評価を入力する。 ・AI テキストマイニングで今日の発表について確認する。	・入力する際に、改善点においても肯定的な意見（〇〇したらもっと良いなど）になることを心掛けるよう促す。資料 2 参照。		
	8 次時の予告 3 分	●次時の予告を行う。			
	9 号令	●日直の号令で挨拶を行う。			

(4) 配置図



(5) 本時の評価

知識及び技能	調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができたか。
思考力、判断力、表現力等	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができたか。
学びに向かう力、人間性等	探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的に現実的な内容を考え、実践につなげようとすることができたか。

公開研究会 分科会記録

分科会

公開授業	授業者	助言者
普通科3年 「総合的な探究の時間」	教諭 祐 川 建一郎	北海道北斗高等支援学校教頭 渡 辺 祐 介 氏

司会(厚谷) 記録(能代)

研究協議記録

1 授業者から

○学習指導案の概要

- ・生徒はタブレット端末を使う基礎能力があり、調べ学習でも多様な視点をもつことができる。
- ・ゼロカーボン卒業後の生活に生かせるようにと考えた。
- ・単元目標については、わかる一最終目標を明確にした。できる一情報整理するためにスライドを活用した。いきる一地球環境、話し合う経験、多様な意見を受け入れて言動に責任をもつ。
- ・本時の目標について評価として、知識・技能について、生徒の目標に応じてできたことでAとする。思考・判断・表現について、同様にAとする。学びに向かう人間性は生徒の目標に応じて概ねできていたことでBとした。

○本日の授業の振り返り

- ・目標を明確にすることができた。
- ・共有機能を活用することで互いの状況を理解することができた。
- ・目標の明確さが大切なことを改めて感じた。
- ・否定的ではなく、肯定的になっている。日常から意識して続けていきたい。
- ・授業者として、参加者に質問がある。①探究テーマは他校ではどうしているか②教科横断的にできた事例を教えていただきたい。

2 研究協議

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」

- ・個々が発表できていたのが素晴らしい。発表スタイルを生徒に委ねられていた。発表方法はスライドがあるためなのかと感じた。各生徒の目標手立てが記載されていて感銘を受けた。
→グループで質問内容を考えるが、聞くのは個人としている。場面、状況に応じている。
- ・AIテキストで全員の意見がわかった。将来に向かっての願いと はあるのか。
→「わかる」は今日まで、「できる」はこれから、できることは何か情報共有していきたい。近隣養鶏場とコーヒー殻の再利用について話し合った。今後のSDGsの観点としても考えていきたい。生徒と生活で中々ない困り感を生かしたい。現在、具体的な活動として節電から意識していければと考えている。
- ・大きなテーマをもって取り組んでいる。上ノ国高校では、地域課題探究型で上ノ国町役場や住民を巻き込んで学習活動を展開している。例として1年生は地域のことを学び、2年生はふるさと高校生議会で提言し、どう課題解決を図ろうと取り組んでいる。主体的・対話的で深い学びについて「広げる観点」も必要ではないかと感じた。地域に聞くと新しい発見と展開、深い学び+広さがある。コミュニティスクールもそのような形で進めている。
→STEAMは終わったわけではなく、現2年に引き継いで学習している。校内の職員にアンケート配布し、分析している。今の助言を基に進めていきたい。

3 助言者から

○単元、題材として

- ・総合的な探究の時間は、教科書がなく、自由度が高い。難しさがある分、生徒の実態や地域の課題、特性を題材にできると感じた。こういった部分がカリキュラムマネジメントである。難しい単元に確実に取り組んでいる。
- ・横断している教科を整理する必要がある。「いい発表をした。」で終わることがないように思う。

- ・カフェでゼロカーボンを繋げたのは学校の特色を生かしていた。普通科3学年の発表だったが、全校に波及し、他学科と連携した取り組みになると、新たなものが見えるのではないか。

○生徒の様子から

- ・今日の授業から、生徒が何をやるのかがわかっている。それが伝わる。普段の積み重ねが授業の中に見える。授業担当者の雰囲気づくりが良い。生徒自身が、なにができるか、自分ごとにできていて、一人一人に価値付けが込められていると感じられた。
- ・ICTを用いて臨機応変に授業者が対応していた。生徒は、発表を聞くのも対話的であった。授業の組み立てが工夫されていた。
- ・総合的な探究の時間で工夫して取り組めるか、日常生活を社会生活に絡められるように教師側も世間で起きていることにアンテナを張れると良い。
- ・学習活動が対話的な学び、深い学びとしてどう單元化していくかが大切である。
- ・生徒が工夫して自分が何をしたいか、より発展していけるようになると良い。単元の見通しを教師が伝えて、生徒が理解できるようになると良い。